2023年度日本建築学会賞（業績）

分離派建築会の活動を多面的に解明した調査・研究・展覧会

本研究活動はこれまでの個別建築家研究を横断し、さらに新たな情報を収集し、また、同時代の美術や思想へ関心の広がりを追跡することで、グループとしての思想のダイナミックな展開を捉え、〈彫刻〉〈田園〉〈構成〉など、分離派建築会を評価する視座を提示した。

こうして明治様式建築と昭和モダニズム建築のあいだでミッシングリンクとも言われる、わが国モダニズム建築の初期受容過程を明らかにすることで、近代建築史研究に大きく貢献した。

分離派建築会とは？

6人は卒業制作の展示をきっかけに、歴史的様式からの分離と新しい建築の芸術的「創作」を唱え、分離派建築会を結成した。

1920（大正9）年 分離派建築会結成
石本喜久治、堀口捨己、山田守、瀧澤眞弓、森田慶一、矢田茂が東京帝国大学建築学科を卒業。その後に、蔵田周忠、山口文象、大内秀一郎が途中から参加する。

石本喜久治
石本建築事務所 創立者

矢田茂
清水組
取締役技師長兼設計部長

蔵田周忠
武蔵工業大学教授
1921年より参加

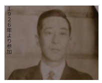
山田守
東海大学建設工学科 創立者
山田守建築事務所 創立者

堀口捨己
明治大学建築学科 創立者
茶室研究の第一人者

山口文象
RIA建築綜合研究所創立者
1924年より参加

森田慶一
京都大学建築学科教授
西洋古代建築論研究の第一人者

瀧澤眞弓
神戸高等工業学校教授
大阪市立大学教授



大内秀一郎
東京高等工業学校建築科長
阿部美樹志事務所
1926年より参加

分離派建築会は展覧会と出版によって建築作品と建築論を発表

	展覧会	出版
1920	第1回作品展	『分離派建築会 宣言と作品』
1921	第2回作品展	『分離派建築会の作品 第二』
1922	第1回関西展覧会	
1923	第3回作品展	
	〈関東大震災〉	
1924	第4回作品展	『分離派建築会作品 第三』
	第2回関西展覧会	
1926	第5回作品展	『建築新潮』第5回展覧会作品号
	〈昭和改元〉	
1927	第6回作品展	『建築新潮』第6回展覧会作品号
1928	第7回作品展	『建築新潮』第7回展覧会作品号

『分離派建築会 宣言と作品』
岩波書店、1920年

モダニズム建築受容の激変の時代に、分離派建築会は一体何を考えたのか。

1909
片山東熊「東宮御所」
1909

1921
瀧澤眞弓「山の家」
1921
（『分離派建築会の作品 第二』）

1931
石本喜久治「白木屋百貨店」
1931
（『建築写真類聚』8期2号）

分離派 100 年研究会の目的

分離派建築会の活動の全貌の解明

なぜ調査が必要なのか？

震災、戦災、建て替えにより建築作品や資料が消失している

駆け出しの建築家のため、そもそも実現した作品が少ない

またアンビルドのプロジェクトが多い

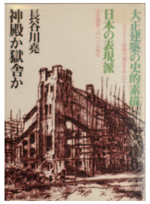
ひとつのグループ活動ではなく、各自の活動であったため

個別建築家研究の総合が必要

芸術、思想などの影響が強く、建築学外の知見が必要。

先行研究

長谷川堯
「日本の表現派　大正建築への一つの視点」
1968



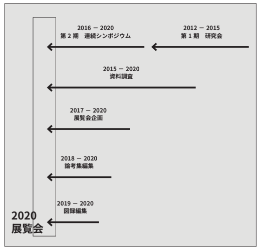
- ・大正期建築史研究の嚆矢
- ・分離派建築会の芸術志向を強調

分離派建築会メンバーによる論考の幅広い文献調査を行っている。しかし、各メンバーの活動や建築作品の調査は限られている。また、時代背景や芸術・思想との影響関係をふまえた客観的歴史記述というより、独自視点からの評論的な性格がつよい。

活動の概要

研究調査
分離派 100 年研究会
・資料の調査
図面、現存建物などの調査
・分析と考察
研究会とシンポジウム

成果公表
分離派 100 年研究会
・論考集の刊行
パナソニック汐留美術館
京都国立近代美術館
（学術協力：分離派 100 年研究会）
・展覧会
・図録編集



資料の調査

図面、現存建物などの調査

分離派建築会に関連する資料は、様々な機関に分散して保管されているものが多く、未公開あるいは未整理のものも少なくない。研究会では網羅的な資料調査を行い、図面、写真、模型、文書等の発見に努めた。

おもな調査箇所

［東京帝国大学卒業設計］	東京大学
［石本喜久治資料］	石本建築事務所社屋
［堀口捨己資料］	明治大学生田図書館
［山田守資料］	東海大学学園史料センター、山田守自邸、NTTファシリティーズイノベーションセンター、郵政博物館、日本建築学会、東京都建設局
［瀧澤眞弓資料］	上田市美術館
［矢田茂資料］	清水建設社屋
［山口文象資料］	アール・アイ・エー社屋、東京大学
［蔵田周忠資料］	東京都市大学蔵田周忠文庫、旧多摩聖蹟記念館
［大内秀一郎資料］	渋谷聖公会聖ミカエル教会、旧米川邸 大内遺族、大阪市電気科学館

分析と考察

研究会とシンポジウム

分離派建築会の多様な制作活動と思想の解明には、建築家ごとの個別研究を総合する必要があった。そのために研究会とシンポジウムを開催し、外部の研究者も招いて情報交換と討議を行った。

第1期　2012年～2015年
少人数の研究会
東京大学と京都大学で交互に開催　報告者は17名

第2期　2016年～2020年
公開の連続シンポジウム　報告者32名

第1期　研究会（2012年～2015年）

第1回　2012｜10｜27　東京大学工学部1号館
長谷川章「青島の〈改革建築〉と日本分離派」
田所辰之助「ヴィルヘルム帝政期における建築とデザインの改革」

第2回　2012｜11｜24　京都大学楽友会館
本田昌昭「1910－20年代のオランダの建築的状況」
中江研「ヴァイマール期ドイツにおける労働者住宅建設と建築家」

第3回　2013｜6｜1　東京大学工学部1号館
岩岡竜夫・大宮司勝弘「分離派からインターナショナル・スタイルへ ― 山田守の戦前の建築作品を通して」
角田真弓「分離派建築会結成の背景」

第4回　2013｜11｜17　京都大学百周年時計台記念館
加藤哲弘「大正期日本の美学の研究方法論について」
田路貴浩「森田慶一の思想形成 ― 構造・ウィトルウィウス・ヴァレリー」

第5回　2014｜7｜13　京都大学工学部3号館
松崎照明「堀口捨己の茶室 ― 研究と作品」
近藤康子「堀口捨己の建築論 ― 茶室の〈機能〉と〈表現〉をめぐって」

第6回　2014｜11｜1　東京大学工学部1号館
岸佑「岸田日出刀の近代性とその諸相」
勝原基貴「岸田日出刀の建築意匠学確立に向けた取り組み」

第7回　2015｜7｜5　東京大学工学部1号館
佐藤美弥「創宇社と分離派の距離について ― 山口文象を中心に」
岡山理香「蔵田周忠 ― 分離派の〈分離派〉として」

第8回　2015｜9｜14　京都大学工学部3号館
杉山真魚「分離派建築会とウィリアム・モリス」
江本弘「〈ジョン・ラスキン〉とは誰か」

第2期　シンポジウム「分離派建築会誕生 100 年を考える」（2016年～2020年）

分離派建築会を捉える試みとして、各回テーマを設定した

第1回　**〈分離派〉とは何か**
2016｜10｜30｜東京大学工学部1号館15号講義室
池田祐子「分離派の誕生 ― ミュンヘン、ウィーンそしてベルリン」
水沢勉「分離派と日本美術のモダニズム」
河田智成「分離派の建築的背景 ― ゼムパーからヴァーグナーへ」
足立裕司「アーツ・アンド・クラフツ運動以降の西欧の動向と日本への影響について」
福田晴虔（コメント）

第2回　**分離派建築会発足と〈創作〉の誕生**
2017｜7｜8｜京都大学時計台記念館
長谷川堯「〈自己の拡充〉の意義 ― 後藤慶二から分離派へ」
南明日香「大正期の美術における〈創作〉意識」
飯嶋裕治「分離派建築会の思想史的背景 ― 和辻哲郎を中心に」
笠原一人「武田五一のセセッション受容と創作」

第3回　**メディアと建築家 ― 博覧会と商業主義のただ中で**
2017｜11｜5｜東京大学工学部1号館15号講義室
河東義之「ゼツェッシオンの導入とその意義」
天内大樹「平和記念東京博覧会の〈分離派式〉」
内田青蔵「〈文化住宅〉を生み出した平和博の〈文化村〉」
橋爪節也「大阪のイマジュリィにおける分離派的なるもの ― 盛り場と沿線モダニズム」

分離派 100 年研究会｜パナソニック汐留美術館｜京都国立近代美術館

第1回 シンポジウム

第6回 シンポジウム

第4回　**分離派建築会と〈田園的なもの〉**
2018｜6｜16　京都大学楽友会館
杉山真魚「〈田園〉をめぐる思想の見取り図」
菊地潤「瀧澤眞弓設計〈日本農民美術研究所〉」
鞍田崇「ノイズとしての〈田園〉 ― 民藝運動とその時代」
田路貴浩「堀口捨己のまなざしと心性」

第5回　**分離派時代の建築教育と建築構造**
2018｜11｜3　東京大学工学部1号館15号講義室
加藤耕一「分離派誕生の背景としての東京帝国大学」
角田真弓「東京帝国大学の建築教育」
宮谷慶一「〈構造〉的側面と職能」
堀勇良「鉄筋コンクリート建築黎明期の諸問題」

第6回　**分離派建築会の造形 ― 建築と彫刻の交差**
2019｜5｜25　西陣産業創造会館
田中修二「大正―昭和前期の彫刻家にとっての建築」
大宮司勝弘「山田守の創作法」
菊地潤「石本喜久治の渡欧」
天内大樹「分離派建築会の〈芸術〉 ― 領域の確保と霧消」

第7回　**新しい都市と社会をめざして**
2019｜10｜26　東京都市大学世田谷キャンパス6号館
岡山理香「蔵田周忠の実験的活動」
梅宮弘光「川喜田煉七郎におけるリアリティの行方」
佐藤美弥「山口文象と創宇社建築会の建築認識」
田所辰之助「〈都市〉に託されたもの ― 滞独時代の山口文象の軌跡」

第8回　**分離派建築会以後 ― それぞれのモダニズム**
2020｜8｜10　オンライン
市川秀和「森田慶一のウィトルウィウス論」
本橋仁「自由無碍なる様式の発見 ― 板垣鷹穂・堀口捨己・西川一草亭」
近藤康子「堀口捨己による様式への問いと茶室への遡行」
勝原基貴「オットー・ワーグナー十年祭と近代建築理解」

成果公表①｜論考集の刊行

田路貴浩編
分離派建築会　日本のモダニズム建築誕生
京都大学学術出版会、2020年、592頁

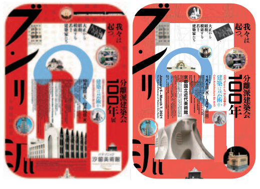
2012年に始まった調査・研究の成果執筆者は、研究会・シンポジウムでの発表と議論をへて論考をまとめた。執筆者は研究会メンバーのほか、連続シンポジウムに招待した哲学、思想史、美術史の専門家を含む29名。全8章で、32本の論考を収録。

論考集 書影

成果公表②｜展覧会の開催

分離派建築会100年 建築は芸術か？

パナソニック汐留美術館
2020年10月10日―12月15日
京都国立近代美術館
2021年1月6日―3月7日
主催：パナソニック汐留美術館
京都国立近代美術館
朝日新聞社
学術協力：分離派 100 年研究会



右｜京都会場ポスター
左｜東京会場ポスター

展覧会の構成

分離派建築会のテーマ
田園｜彫刻｜構成

時代背景
都市化の進展と大衆消費社会の出現
関東大震災と鉄筋コンクリート造の普及
表現主義から合理主義への芸術思潮の変転

これらが織りなす錯綜体として分離派建築会の作品と思想を解き明かし、単なるエリートの芸術至上主義ではなく、時代状況に深く関わりながら、モダニズム建築を受容していったことを明らかにした。

東京帝大卒業制作、大学や企業のアーカイブ、美術館博物館から資料を収集。同時代の芸術作品や歴史をあわせて紹介することで、時代潮流との関係性を視覚的に分かりやすく提示した。

展示会場は、論考集でもとりあげた4つの視点を軸として構成。

彫刻、田園、構成、震災、鉄筋コンクリート

展示用模型の制作

堀口捨己「紫烟荘」
明治大学理工学部建築学科　小林正美研究室

瀧澤眞弓「日本農民美術研究所」
菊地潤（研究会メンバー）

アンビルド作品の CG復元

SYMPHONY OF VOLUMES

企画　本橋仁
映像制作　戸村陽
CGモデリング　長澤寛
音楽制作　上村洋一
監修　田路貴浩

関連シンポジウム・講演会の開催

会期中、講演会やシンポジウムを開催し、展覧会の紹介にとどまらず、新たな情報収集を継続し、分離派建築会の現代的な意義について議論した。

2020｜10｜24　**シンポジウム「大阪の石本喜久治」**
菊地潤（研究会メンバー）、谷口嘉彦（石本建築事務所）、松田修平（同左）、杉山浩一（同左）、磯達雄（建築ジャーナリスト）

2020｜10｜31　**シンポジウム「分離派建築会―新しい様式を求めて」**
香山壽夫（建築家）、藤岡洋保（建築史家）、田路貴浩（研究会メンバー）

2020｜11｜8　**シンポジウム「分離派建築会と大正美術界」**
大川三雄（建築史家）、水沢勉（神奈川県立近代美術館館長）、田所辰之助（研究会メンバー）

2021｜1｜9　**シンポジウム「分離派建築会―モダニズム建築への道程」**
田路貴浩（研究会メンバー）、加藤耕一（同左）、足立裕司（神戸大学名誉教授）、梅宮弘光（神戸大学）

2021｜1｜16　**講演会「〈ことば〉をもった大正時代の建築家たち」**
本橋仁（研究会メンバー）

マンガ・リーフレット制作

研究者だけでなく広く一般に紹介することもねらいとして、マンガのリーフレットを作成した。このマンガを作成したイ田イ子氏は、分離派建築会設立メンバーの山田守の孫にあたる。

展覧会図録 書影

オンライン　ギャラリーツアー

新型コロナウイルス感染対策による行動制限があったにもかかわらず、二会場で延べ26,063人の来場者と幅広い年齢層の一般客をひきつけた。「ニコニコ美術館」のオンライン展覧会解説番組は20,074人が視聴した。

メディア掲載

メディアへの波及もあり、合計334件のプレスの取り上げがあった。

京都国立近代美術館
分離派建築会100年
建築は芸術か？
1月20日（水）
18:00～

図録の刊行

分離派建築会 100 年 建築は芸術か？
朝日新聞社、2020、275頁

展覧会出品資料約160点をすべてカラーで掲載。また、研究調査の成果として研究会メンバーによる4本の論考を所収。英訳併記とし、海外読者にも対応した。約3700冊の売り上げた。また、西岡勉氏によるブックデザインも高く評価された第62回全国カタログ展・経済産業大臣賞（最高賞）受賞した。

図録はバイリンガルとし、海外への情報発信も行った。とくに論考、年表、作品および文献リストなどは、外国人研究者にとって貴重な情報源となるだろう。

右｜京都会場
左｜東京会場

構成メンバー

田路貴浩	代表、京都大学・教授
天内大樹	青山学院大学・准教授
市川秀和	福井工業大学・教授
岡山理香	東京都市大学・教授
勝原基貴	金沢工業大学・講師
加藤耕一	東京大学・教授
河田智成	広島工業大学・教授
菊地潤	ifaa 会員
近藤康子	京都橘大学・准教授
杉山真魚	岐阜大学・准教授
大宮司勝弘	DOCOMOMO JAPAN・事務局長
田所辰之助	日本大学・教授
角田真弓	東京大学・技術専門職員
大村理恵子	パナソニック汐留美術館・主任学芸員
池田祐子	京都国立近代美術館・副館長兼学芸課長
本橋仁	京都国立近代美術館・元特定研究員

分離派建築会の活動を多面的に解明した調査・研究・展覧会
分離派 100 年研究会｜パナソニック汐留美術館｜京都国立近代美術館